

方忌

うし、ひつじ、たつ、いぬの日は、辰の方にあり  
とら、さる、み、あの日は、みの方にあり

〔北山抄六月〕同日○十神今食事○中

依有方忌不出御例延喜十三年六月、左大臣申云、前代不忌、貞觀以來有此事、法皇御時、忽進饒饌、以

事云々、天慶二年六月九條記云、中宮仰云、延喜御代、雖方塞不被忌、未及寅刻、還御云々、

〔拾芥抄上本〕方塞夜誦天一神角六方

大威德功德自在通王佛天一神方塞夜、禮拜誦十反、即無答

又内典華嚴經文云、伴誦云、迷故三界常、悟故十方空、本來無東西、奈所有南北、已上謂之天

一神頌今謂諸經中無此文、一明心者、二明福者、萬明福者、千萬福者、急急如律令、謂之太白神方

塞頌

〔榮花物語楚王二十六の夢〕よしひら平吉も涙にむせび、なに事もすがくしうも申さで、かくてためら

ひ申けふこそは先おさめたてまつらせ給べき日○萬壽二年八月二日、尙侍嬪子葬送にてさぶらふめれ、さても

かくておはしますべきにあらねば、いづかたにかゝるて奉るべきとはせ給へば、法興院はよき

かたに候めり、こよひほこ院におはしますべう申す、

〔左經記〕長元九年四月十九日丁卯

一可奉遷○後一條之所事○中

又被命云、自清涼殿以吉方、可定御葬所、歟、將自遷座之所、可取吉方、歟、其事一定之後、可定奉遷之

所、歟、右衛門督申云、應和四年中宮崩於主殿寮之後、奉遷東院、而道光偏自東院、以吉方爲御葬所、

其後保憲遷座所及御葬所等、自主殿寮、可取吉方之由、奉勸文云々、即披覽彼年邑上御記、道光有

不覺行之文、然者問陰陽師之後、可被定其所云々、頃之資業朝臣等歸參、申云、北對頗雖宜、東西北